

池上彰さんのコラムの掲載を見合わせた問題について

池上彰さんのコラム「新聞ななめ読み」の掲載を見合わせた問題について、第三者委員会が前社長や経営幹部が不適当な関与をし、経緯の説明も不適当だったと認定したことを、朝日新聞社として重く受け止め、あらためて深くおわびいたします。

木村伊量前社長が掲載に難色を示し、編集担当だった杉浦信之前取締役が抗しきれなかったことは、朝日新聞として誤った判断でした。また、池上さんが連載終了との認識を持ったにもかかわらず、それを覆すだけの十分な説明を尽くさないまま、掲載継続のために「今後も誠意を持って話し合ってまいります」とだけ社外に説明したのは、「余りに朝日新聞に有利に解釈した」と指摘されたとおり、都合のいい説明だったと反省しています。

慰安婦の特集紙面と池上さんのコラム掲載見合わせ、福島第一原発事故を巡る吉田調書報道の記事取り消しという一連の問題の責任を取って、木村氏は社長を辞任して社を去りました。杉浦前取締役と、危機管理を担っていた福地献一前取締役社長室長、広報担当だった喜園尚史前執行役員も取締役、執行役員を辞任・降格しましたが、今回のコラムに関する報告書の指摘を踏まえ、さらに杉浦、福地、喜園の3人を停職・出勤停止2カ月とする処分を決めました。

掲載拒否の判断が、池上さんのジャーナリストとしての矜持を傷つけたこと、社内で関係者の連絡が悪く、池上さんの認識と違う説明を続けたことについて、池上さんにあらためて深くおわびいたします。